

## 令和元年度 事業報告

平成 31 年 3 月 1 日から令和 2 年 2 月 29 日までの事業報告

### 1 会員状況

#### 1.1 法人会員及び団体会員

級 種	令和元年度末	平成 30 年度末	増 減
1 級	9 社	9 社	±0 社
2 級	4 社	4 社	±0 社
3 級	18 社	19 社	-1 社
4 級	32 社	33 社	-1 社
5 級	75 社	75 社	±0 社
計	138 社	140 社	-2 社

#### 1.2 個人会員

種 別	令和元年度末	平成 30 年度末	増 減
正会員	942 名	958 名	-16 名
(内・名誉会員)	(10 名)	(9 名)	(+1 名)
(内・永年会員)	(36 名)	(32 名)	(+4 名)
学生会員	65 名	64 名	+1 名
アジア海外会員	13 名	21 名	-8 名
アジア海外学生会員	2 名	2 名	±0 名
計	1022 名	1045 名	-23 名

#### 1.3 名誉会員 (10 名)

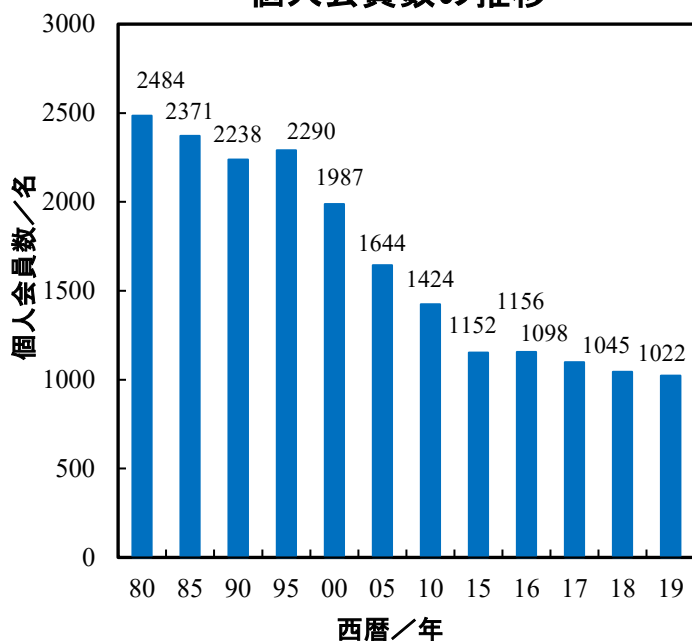
阿部 正彦 池田 功 伊藤 俊洋 荻野 圭三 北原 文雄 島崎 弘幸  
 田嶋 和夫 常盤 文克 二木 鋭雄 宮澤 三雄

#### 1.4 日本油化学会フェロー (12 名)

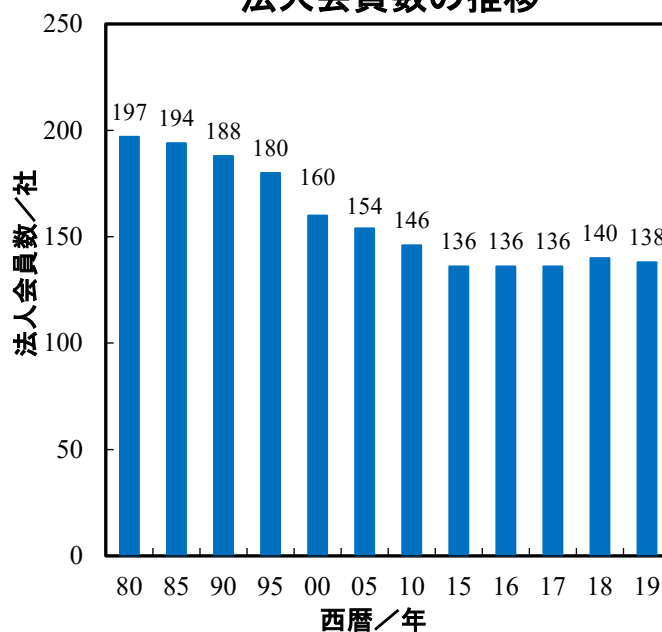
石上 裕 今栄東洋子 岩橋 楨夫 岡崎 三代 佐藤 清隆 菅野 道廣  
 妹尾 学 武田 徳司 宮澤 陽夫 師井 義清 山根 恒夫 Ching T. Hou

#### 1.5 会員数の推移 (個人・法人)

個人会員数の推移



法人会員数の推移



## 2 会務

### 2.1 総会

第 65 回定時総会を、平成 31 年 4 月 22 日、油脂工業会館 9 階会議室で開催した。委任状提出者、書面による表決者を含めて 96 名の社員（代議員）の出席を得て議案を審議した。平成 30 年度事業報告及び決算案が審議され、原案とおりの可決・承認された。さらに、令和元年度の役員（理事 13 名、監事 3 名）の選任が行われた。

ひきつづき、推戴・表彰式が行われ、つぎの各氏が推戴・表彰された。

- ① 日本油化学会功績賞が、元花王株式会社 妻鳥 正樹 氏に授与された。
- ② 平成 30 年度日本油化学会賞が、弘前大学 中川 公一 氏に授与された。
- ③ 平成 30 年度日本油化学会工業技術賞が、ハウス食品グループ本社株式会社 宮崎 絹子 氏、神山 和夫 氏に授与された。
- ④ 平成 30 年度日本油化学会進歩賞が、株式会社資生堂 宇山 允 氏に授与された。
- ⑤ 第 10 回日本油化学会女性科学者奨励賞が、花王株式会社 本間 里佳 氏に授与された。

つづいて、東北大学教授・名誉教授 宮澤 陽夫 氏から演題「100 歳長寿を支える食品とは」のご講演を頂き、総会に関するすべての行事が終了した。総会後の懇親会は、鉄鋼会館ニューオータニで開催され、約 60 名が出席した。

### 2.2 理事会

理事会は 5 回開催し、平成 30 年度決算案の承認、理事の中から令和元年度会長、副会長、常務理事の選定、運営委員長、各業務委員長、各支部長、各専門部会長等の委嘱、日本油化学会名誉会員、フェロー、功績賞、女性科学者奨励賞及び日本油化学会進歩賞等の承認、令和 3 年度 第 60 回年会開催地の決定及び実行委員長の選任、創立 70 周年記念事業として令和 4 年に釧路で開催することを決めた第 2 回世界オレオサイエンス会議（The 2nd World Congress on Oleo Science, WCOS 2022）の骨子企画・予算を審議し決議した [出席理事 延 58 名、出席監事 延 10 名]。別に、定款第 34 条に基づく決議（書面による審議）を 2 回開催し、内閣府に定期的に提出する書類（平成 30 年度事業報告等に係る提出書類等および令和 2 年度事業計画等）を承認した。

### 2.3 運営委員会及び業務委員会等の開催状況

運営委員会を 5 回、支部長連絡会を 1 回開催した。なお各業務委員会等の開催数は次のとおりである。

総務委員会	5 回	国際交流委員会	1 回
財務委員会	2 回	企画・部会統括委員会全体会議	2 回
企画・部会統括委員会	3 回	学会賞等選考委員会	2 回
規格試験法委員会(含小委員会)	8 回	役員等候補者推薦委員会 メール審議	1 回を含む 2 回
編集委員会(オレオサイエンス)	5 回	学術専門委員会	1 回
編集委員会(JOS)(メール審議)	1 回	日本油化学会創立 70 年記念準備委員会	2 回
功績賞等推薦委員会	2 回		

運営委員会は、当会の継続的な活性化・財務基盤の安定を図るべく検討を進め、WCOS 2022 の国際会議を通じた専門研究力のレベルアップと、世界への発信力アップを実現する企画と実行体制案を審議し理事会承認を得た。また表彰事業を行うために必要な資金を確保するための資金運用規定を審議し理事会へ提案した。総務委員会は、海外旅費規程等の諸規則類の見直しを進め理事会の承認を得た。財務委員会は、平成 30 年度決算(案)を理事会に上程した。また令和 2 年度予算書(案)を理事会に上程するとともに、令和元年度決算(案)を作成した。企画・部会統括委員会は、フレッシュマンセミナーを企画・開催した。また、平成 29 年度からスタートした実践講座（油脂・界面）を本年も開催した。規格試験法委員会は、優れた油脂分析法の開発と普及のために、アメリカ油化学会と協力関係を確保する覚書(案)を作成し、理事会承認を得て締結した。さらに、各編集委員会は、「JOS」誌及び「オレオサイエンス」誌の編集・発行（Web 上公開も含む）を行った。

### 3 事業報告

#### 3.1 (公1) 研究成果の公開, 人材教育, 研究の奨励及び業績の表彰を行う事業

##### 3.1.1 研究成果の公開

##### 3.1.1.1 第58回日本油化学会年会

第58回日本油化学会年会実行委員長の後藤 直宏を中心に実行委員会を組織し, 令和元年9月24日(火)~26日(木)に東京海洋大学品川キャンパスに於いて第58回日本油化学会年会を開催した。

参加者は540名, 講演の合計が185件となった。教育講演として東京都江東区中川船番所資料館の久染 健夫先生が「江戸の運河と流通」を, 特別講演として流通経済大学の苦瀬 博仁先生が「江戸から平成までの、ロジスティクスの歴史物語」を講演された。また, 学会テーマ「科学者と技術者の交差点を目指す」に立脚した主題シンポジウム「シーズとニーズのマッチング」を開催し, 大学における人材教育と企業が進める研究活動のマッチングが討論されて盛況を博した。この他, マスターズクラブ講演会, オレオマテリアル部会, オレオナノサイエンス部会, ライフサイエンス・産業技術部会, 界面科学部会, 洗浄・洗剤部会が主催するシンポジウムを開催した。また研究奨励を目的に, 油脂優秀論文賞10題, 学会賞等の受賞講演3題, ヤングフェロー賞2名, 学生奨励賞9名, ポスター賞8名の表彰を行った。

会期	: 令和元年9月24日(火)~26日(木)
会場	: 東京海洋大学品川キャンパス
内容	: ①参加者総数 <span style="float:right">540名</span>
	: ②講演総件数 <span style="float:right">185題</span>
	一般公演: <span style="float:right">138題</span>
	・口頭講演 <span style="float:right">79題</span>
	・ポスター <span style="float:right">59題</span>
	依頼公演: <span style="float:right">47題</span>
	・教育講演 <span style="float:right">1題</span>
	・特別講演 <span style="float:right">1題</span>
	・招待講演 <span style="float:right">32題</span>
	・受賞講演 <span style="float:right">3題</span>
	・主題シンポジウム <span style="float:right">7題</span>
	・部会シンポジウム <span style="float:right">23題</span>
	・マスターズクラブ講演会 <span style="float:right">1題</span>
	・JOS編集委員会セミナー <span style="float:right">1題</span>
	・油脂優秀論文賞受賞講演 <span style="float:right">10題</span>
	③懇親会 <span style="float:right">参加者 約200名</span>
	日時: 令和元年9月25日(水) 18時~20時
	会場: TKP ガーデンシティー品川

##### 3.1.1.2 日本油化学会会誌(論文誌・会員誌)の発行

###### (1) 「Journal of Oleo Science」誌(第68巻第1号~12号総ページ数1,316ページ)

論文誌として, 冊子版と電子版を発行しており, 68巻は原著論文137件, 特集号(6月: JOCS-AOCS Joint Symposium 2018. 5件(うち総説4件)掲載)に関する Editorial Message 1件, Annual Index を掲載した。また, ページ外で, 投稿規定, 入会案内等を掲載した。なお, 最新の Impact Factor (IF と略) となる 2018 年版 JOS 誌の値は, 2017 年版 JOS 誌の IF 1.182 から 1.208 へと増え, また 5 年平均の IF でも 1.349 から 1.374 へと増えた。J-STAGE (電子版) では, 総説を XML 形式でも公開し, WEB 公開でのカラー公開(原則全てのカラーの図・写真), 電子付録(Supporting Information)の公開, および Graphical Abstract の登載・早期公開を継続推進した。質的には, 外国人の編集委員が 7 人参画し論文の多様化に対応した。

さらに教育の一環として年会時に「英語論文の書き方セミナー」を実施した。

掲載内容	報文	118 件
	ノート・速報	12 件
	総説	7 件

(2) 「オレオサイエンス」誌（第 19 巻 第 1 号～12 号 総ページ数 540 ページ）

特集 12 件を企画したほか、巻頭言、表彰、会務、若手研究者紹介、Topics in Oleo Science、主催報告、学会情報、研究室紹介、JOS 投稿論文（一部 Graphical Abstract 掲載）、書評、会員のひろば、資料など、会員に役立つ情報を中心とした会員向けの学術情報誌として編集した。また、総説については、編集委員の査読による一層の質的向上を図り、図は一部カラー印刷（巻頭カラーページを含む）を行った。ページ外では、会告（年会のプログラムを含む）、目次等を、303 ページ編集した。総説類の J-STAGE 公開は 10 月号以降本誌発行の直後に行うこととし、それまでの総説類も全て公開した（online の ISSN は 20 巻 1 号から記載）。

掲載内容	特集総説・受賞総説	37 件
	若手研究者紹介	4 件
	Topics in Oleo Science	3 件
	部会紹介	4 件
	油脂関連情報	30 件（特許情報はまとめて 1 件と計算）
	その他（巻頭言、表彰、会務、主催報告、学会情報、研究室紹介、JOS 投稿論文、書評、会員のひろば、資料など）	

### 3.1.2 人材教育

本部主催の人材育成事業は、企画・部会統括委員会を中心に企画・実施し、フレッシュマンセミナー（油脂）、フレッシュマンセミナー（界面）を行った。フレッシュマンセミナーのテキストには本年度 4 月に改訂・刊行した日本油化学会編纂の教本「油脂・脂質の基礎と応用（改訂第 3 版）」および「界面と界面活性剤（改訂第 2 版）」を使用した。参加者数は合計 204 名であった。教本「油脂・脂質の基礎と応用改訂（第 3 版）」は、栄養学の進展を取り入れ改訂し 4 月に発刊した。「界面と界面活性剤」については、令和 2 年 6 月に技術内容を見直した修正増補版を発刊の予定。フレッシュマンセミナーを受講した中堅の研究者・技術者を対象に、より実践的なセミナーとして、油脂実践講座、界面実践講座を開催した。参加者数は合計 91 名であった。若手の会委員会は、8 月にサマースクールとして、「産・官・学の新世代技術へのアプローチ」をテーマとした講演会を開催し、産学官の若手研究者の交流を深めた。

### 3.1.3 研究の奨励・業績の表彰

本会では、油脂・脂質、界面活性剤及び関連分野の科学・技術の進歩を奨励すると共に、著しい成果をあげた研究者を表彰している。平成 30 年度の主な受賞者を、本報告の会務・総会の項で紹介した。令和元年度も、若手の研究者を奨励するための日本油化学会進歩賞の授与者を選考した。また、研究成果を表彰するため、学会賞等、第 22 回 JOS エディター賞、第 14 回オレオサイエンス賞、第 10 回 JOS ベストオーサー賞等授与者を選考した。また本会の発展や油化学分野の科学・技術の発展に功労のあった会員への功績賞等の選考も実施し、第 66 回定時総会の席上等で表彰する。

### 3.2 （公 2）評価・試験法の標準化と普及を行う事業

規格試験法委員会は、優れた油脂分析法の開発と普及のために、アメリカ油化学会と協力関係を確保する覚書(案)を作成し、理事会承認を得て 11 月 15 日に締結した。また、品質管理や研究開

発を担う技術系職員および学生を対象とした第19回基準油脂分析試験法セミナーを開催して、日本油化学会が制定した試験法の標準化と普及を図った。セミナー参加者は合計54人であった。前年度余剰金は、予定とおり新規試験法の開発のための委員会開催費に充当した。そして見出した新規試験法3法（燃焼法，ゴシポール（HPLC）法，<sup>31</sup>P-NMRによるリン脂質の定量法）を採用することとした。

### 3.3 （公3）地域における学術の振興と普及を行う事業

各支部による講演会・セミナー等を、例年に倣い開催した。また、各支部主催の講演会・セミナーの企画を充実させるため、幹事会等を下記のとおり開催した。

[支部委員会等の開催]

- ・ 関東支部 常任幹事会3回，幹事会1回
- ・ 東海支部 常任幹事会3回，支部合同役員会1回，支部将来計画委員会1回
- ・ 関西支部 常任幹事会3回，幹事会合同会議3回

[支部の行事開催]

各支部による講演会，セミナー等の行事は，計11回開催し，参加者数は合計500名を数えた。ご出講いただいた講師の先生方は合計45名であった。

・ 関東支部	開催回数	2回	参加者数	165名	講師	18名
・ 東海支部	開催回数	5回	参加者数	228名	講師	10名
・ 関西支部	開催回数	4回	参加者数	170名	講師	17名

このうち，（一財）油脂工業会館共催の地区講演会は，6月に高知市（関西支部），11月に岐阜市（東海支部），弘前市（関東支部），令和2年2月に奈良市（関西支部）の4ヶ所で開催した。油化学の視点から市民を対象とした啓発活動を行い，地域における学術振興・普及に努めた。

### 3.4 （公4）学術専門分野の活性化事業

学術専門分野の活性化については，オレオマテリアル部会，界面科学部会，洗浄・洗剤部会，ライフサイエンス・産業技術部会およびオレオナノサイエンス部会が活動を展開し，それぞれの専門分野を深耕した。また，マスターズクラブは，学際的な視点・分野横断的な視点も加えた活動を展開した。

オレオマテリアル部会は，第3回オレオマテリアル学術交流会を開催した。界面科学部会は，部会シンポジウムと，「サステナブルに貢献する界面科学」をテーマとした第66回界面科学部会秋季セミナーを開催した。その他，東海，九州の各地区セミナー・講演会を開催した。洗浄・洗剤部会は，部会シンポジウム「健康・清潔・安全な生活を支える洗浄基剤の開発」ならびに第51回洗浄に関するシンポジウムを開催した。また，ライフサイエンス・産業技術部会は，部会シンポジウム「食のグローバル化と食品安全認証」を開催した。マスターズクラブは，関東セミナー（3回），東海講演会・談話会，関西見学会・講演会（2回）を開催した。オレオナノサイエンス部会は，部会シンポジウム「薬学と健康科学」を開催した。

各支部及び各専門部会等は，それぞれのリーダーの指導の下，独自に運営を行っているが，企画・部会統括委員長が年2回開催する全体会議で情報交換などを行い，必要に応じスケジュール等の調整を行った。

以上のとおりであるが，令和元年度事業報告には，「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので，事業報告の附属明細書を作成していない。